HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	趣旨説明
Author(s)	中野, 悦子
Citation	第19回JINSHA 情報共有会 ： 「社会的インパクト」を「評価学」の視点から考える, 1-10
Issue Date	2025-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94734
Type	conference presentation
File Information	001-010.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第１部　講演

趣旨説明

北海道大学　統合 URA 本部・主任 URA　**中野　悦子**

本日のテーマは、イベント案内のチラシに書かせていただきましたとおり、研究評価からは距離のある「評価学」の視点から「社会的インパクト」について学び、改めて研究が創出する社会的インパクトとは何かを考える契機とする、といたしました。これだけ聞くとあまりよくわからないと思いますが、私たち URA の問題意識から申し上げますと、三つの背景を挙げることができます。一つ目は大学評価、二つ目が研究評価、三つ目が社会的インパクト評価です。

まず大学評価について、これは、私自身も含めた国立大学に所属する URA が、今、非常にドキドキしているところだと思います。第四期中期目標期間の運営費交付金に新しく「ミッション実現戦略分」という予算が導入され、その予算配分に社会的インパクトを指標とした評価が用いられることになりました。ここで特徴的なのが、各大学のミッションを踏まえた強みや特色から創出された社会的インパクトが評価されるという点です。ご存知の方が多いと思いますが、イギリスでは、Research Excellence Framework（REF）が、研究評価の枠組みとして使われています。今回の運営費交付金の評価指標は、その REF の社会的インパクト評価の部分を参考にする、となっています。REF はあくまで研究評価のフレームワークですが、それを大学全体の、それも大学のミッションとつながりのある社会的インパクトを評価する際の指標にすることとなりました。私たち URA にとっては、「お金」に関わる話はいろいろと上から指示が来ることになり、上司からはとにかく社会的インパクトを調べろ、と言われたりして「社会的インパクト」というキーワードの使用が日常的に上昇している方も多いのではないかと思います。

次に研究評価です。後で説明いたしますが、JINSHA 情報共有会の実施体となっている「人文・社会科学系 URA ネットワーク」では、京都大学の人社系 URA を中心に、人文・社会科学における研究評価について、非常に長く取り

組んでいます。2018 年に象徴的なイベントとして、「人文・社会科学系研究の未来像を描く―研究の発展につながる評価とは―」というタイトルでフォーラムが開催されました[1]。これ以降、いわゆる論文指標に偏重気味な日本の大学の研究評価体制に対して、人文・社会科学の研究成果をどのように考えていくのか、さらに「責任ある研究評価」（RRA）の文脈で日本の研究評価をどう考えるのかなどについて、いろいろな取り組みや議論の蓄積があります。その中で人社系研究が創出する社会的インパクトについても以前から議論になっています。

ここまではアカデミアのことですが、その一方で、最近ニュースなどでも日常的にインパクト投資や社会的インパクト投資など、投資との関係で「社会的インパクト」という言葉がよく聞かれるようになっています。この文脈では、2016 年の内閣府「社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ」が発表した定義がよく引用されています[2]。ここからでもすでに 10 年近く経っていますが、ここで言われている定義と今求められている社会的インパクトが関係しているのかいないのかがわからないままにコミュニケーションがなされているように感じています。ちょっと文系っぽい表現で言いますと、相手がどういう意味内容でその言葉を使っているのかがわからないため、なかなかコミュニケーションがかみ合わないような背景があるということです。

URA からの問題提起として、このような三つの背景をご説明いたしました。最初の二つはどちらかというと URA としての直接的な課題ですが、三つ目の視点を入れることによって、もう一度、自分たちが今までやってきたところを捉えなおし、そもそも社会的インパクトとは何なのかを検討してみたいという、そういう思いで今回の情報共有会を企画させていただきました。

1　京都大学　学術研究支援室　『人文・社会科学系研究の未来像を描く―研究の発展につながる評価とは―』（第 4 回　人文・社会科学系研究推進フォーラム　報告書）、2018 年 9 月。
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/236470

2　社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ「社会的インパクト評価の推進に向けて―社会的課題解決に向けた社会的インパクト評価の基本的概念と今後の対応策について―」（2016 年 3 月）
https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/social-impact-hyouka-houkoku.pdf

今回は二つの講演をお願いしております。一つ目は、明治大学公共政策大学院の源由理子先生に「評価と社会的インパクト～評価学の視点から」というタイトルでご講演いただきます。二つ目は「大学における社会的インパクト評価と評価学的アプローチの接続」というテーマで、国文学研究資料館の押海圭一先生にご講演いただきます。まず源先生のご講演から、評価学での社会的インパクトの考え方を学び、次にその考え方が、今までの私たちの試みとどういう接点があるのかについて、押海先生にお話ししていただく、という建て付けになっております。その後に、会場にお集まりの皆様と一緒に、「研究の社会的インパクトとはどういうものか」という、そもそものところに立ち戻って、ワークショップを行います。

最後に JINSHA 情報共有会の実施体となっている人文・社会科学系 URA ネットワークについて簡単に紹介させいただきます[3]。人社系 URA は、今は少し増えてきましたが、研究大学強化促進事業が始まった頃は、各大学に一人いるかいないかの状態でした。一人で仕事をしていることが多かったため、横のつながりを広げて協働し、いろいろな課題を解決していくための緩やかなつながりとして、このネットワークが発足されました。今年で立ち上げから 10 年経ち、幹事校として運営に参加している機関が 13 大学となりました。それ以外にも、所属機関は幹事校ではないが、企画を一緒に検討してくださったり、フォーラムには毎回来てくださったりして連携している方々が大勢いらっしゃって、非常に大きなつながりができていると思っております。この 10 年の間に、フォーラムを年に 1 回と、情報共有会という小規模の勉強会を開催し、今回がその第 19 回目となります。

沖縄科学技術大学院大学（OIST）で開催される RA 協議会 2024 年度年次大会では、人社系 URA ネットワーク 10 年の軌跡と展望というテーマでポスター発表をさせていただきます[4]。沖縄に行かれる方は是非お立ち寄りください。また、2024 年度の人社系研究推進フォーラムは、神戸大学と新潟大学が

[3] 人文・社会科学系 URA ネットワークの活動については、https://www.ura.adm.u-tokyo.ac.jp/services/view/d6a8cef1-22f8-4c00-b080-c28fc4cf6c75　参照のこと。

ダブル主催で企画し、「人社系研究の社会貢献」というテーマで神戸大学で開催する予定になっています[5]。是非ご参加いただけたら大変嬉しく思います。

[4] 川人よし恵、新澤裕子、他「機関をこえた URA 連携の意義とは～人社系 URA ネットワーク 10 年の軌跡と展望」RA 協議会　第 10 回年次大会（2024 年 10 月 16–17 日）、ポスター発表（優秀賞）。https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/records/2010385

[5] 第 10 回人文・社会科学系研究推進フォーラム「人社系研究はどう産業に貢献し得るのか　―“シンダイ”の実践から紐解く―」開催案内：https://www.ura.niigata-u.ac.jp/2025/02/13/6371/

第19回 JINSHA 情報共有会 @北海道大学

「社会的インパクト」を「評価学」の視点から考える

趣旨説明

2024年10月9日（水）

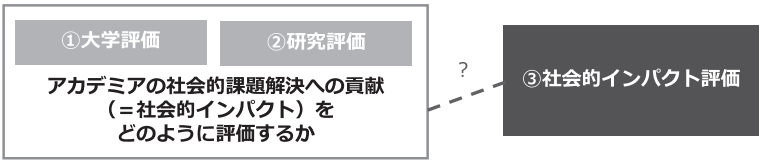
主　催：北海道大学　統合URA本部
共　催：大阪大学 経営企画オフィスURA部門、京都大学 学術研究展開センター、筑波大学 研究戦略イニシアティブ推進機構 研究マネジメント室、琉球大学 研究推進機構研究企画室、早稲田大学 研究戦略センター、横浜国立大学 研究推進機構、中央大学 研究推進支援本部、広島大学 未来共創科学研究本部研究戦略部研究戦略推進部門、東北大学 研究推進・支援機構リサーチ・マネジメントセンター、東京大学 リサーチ・アドミニストレーター推進室、新潟大学 経営戦略本部UA室、神戸大学 学術研究推進機構学術研究推進室

1

本日のテーマ

研究評価からは距離のある**「評価学」**の視点から
「社会的インパクト」について学び、
改めて**研究が創出する社会的インパクトとは何か**を
議論する契機とする

【3つの背景／URAからの問題意識】



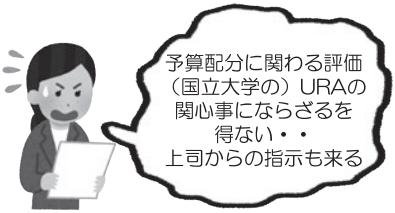
2

背景①　大学評価：国立大学法人第4期運営費交付金配分

「我が国最大の知的インフラである国立大学が、**我が国社会の公共財として、**学術的な価値だけでなく、**社会、経済、国民生活等の進歩にどれだけ影響を与えることができるかということを国民・社会に説明して理解を得ていく**必要があり・・・。各大学が社会的なインパクトを創出するために効果的な取組を分析し、その**戦略的な強化に取り組むことを後押しする仕組みとして「ミッション実現戦略分」を導入**した。」
（国立大学法人運営費交付金「ミッション実現戦略分」の評価について（骨子）概要部分から引用）

・**各大学が自身のミッションを踏まえた**、強み・特色ある分野を中心に創出された**社会的インパクトを評価し、予算配分に反映**

・**イギリスのREF（Research Excellence Framework）　を参考**に評価方法が検討
研究以外が基となる社会的インパクトの指標をどうするのかは例示がまだ



・文科省の資料には「社会的インパクトの「社会」をどの範囲と定めるかについては、**各大学がそれぞれのミッションに基づきその適切性を説明する必要**がある」とある一方で、評価体制や評価を順位付けするための枠（グルーピングなど）は今後の検討となっている

3

背景②　研究評価：人文学・社会科学の研究評価の検討

・**人社系URAを中心**とした人社系研究評価の検討、多様な評価指標の可能性

・**論文指標偏重の弊害の警鐘**と**責任ある研究評価**

・**人文・社会科学系研究の社会的インパクト評価**についての検討開始
（日本学術会議 科学者委員会 研究評価分科会での報告、令和5（2023）年9月）

・RESSHでの取組発表　Yu Sasaki, Yuko Shinzawa, Futaba Fujikawa, Keiichi Oshiumi and Kanako Hirasawa, “Putting Our Platform to Work: Debating Responsible Research Assessment and ‘Societal Impact’ in the Japanese University System” RESSH2024, Galway, 24 MAY 2024

https://ressh2024.wordpress.com/

4

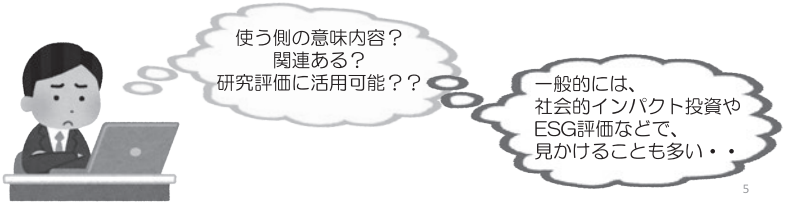
背景③　大学の社会課題解決への貢献・・・社会的インパクト評価？

内閣府・社会的インパクト評価検討ワーキング・グループの定義（2016）
https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/social-impact-hyouka-houkoku.pdf

「社会的インパクト」：短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカム

「社会的インパクト評価」：社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること

※「評価」は「監査」・「査定」ではなく、「価値を引き出す」こと
評価を実施し、活用することで、組織の成長や事業の改善等様々なメリット

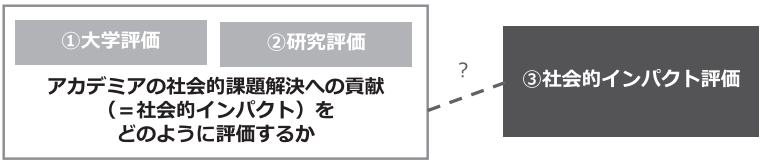


5

本日のテーマ（再掲）

研究評価からは距離のある**「評価学」**の視点から
「社会的インパクト」について学び、
改めて**研究が創出する社会的インパクトとは何か**を
議論する契機とする

【3つの背景／URAからの問題意識】



6

第1部　講演

「評価と社会的インパクト～評価学の視点から」

源 由理子 氏 （明治大学 公共政策大学院 ガバナンス研究科・教授）

（略歴）国際基督教大学卒。アメリカ国際経営大学院修士課程修了（MIM）。東京工業大学大学院社会理工学研究科博士後期課程（人間行動システム専攻）修了、博士（学術）。国際協力事業団（現国際協力機構、JICA）等を経て現職。これまでJICA・世界銀行・自治体・NPO/NGO等における評価システム構築・手法開発の研究・実践に携わる。文科省、厚労省、総務省、文化庁、自治体等の評価関連委員、研修講師等を歴任。日本民間公益活動連携機構専門家会議委員、JICA有識者評価委員会委員、一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアティブ（SIMI）評議員。日本評価学会副会長。専門は評価論、社会開発論。

「大学における社会的インパクト評価と評価学的アプローチの接続」

押海 圭一 氏 （国文学研究資料館 研究部・特任准教授）

（略歴） 早稲田大学文学部卒。京都大学法科大学院修了（法務博士）。政策研究大学院博士後期課程在学中、研究テーマは「人文系研究評価」。2011年より、総合地球環境学研究所特任専門職員（IR担当）、琉球大学主任リサーチ・アドミニストレーター（研究費獲得支援、研究プロジェクトマネジメント、研究IRなどを担当）、人間文化研究機構本部機構長室 特任助教（評価・IR担当）を経て、現職。現在は研究部に所属し、館のIR実務および人文・社会系研究評価研究を実施中。

7

第2部　ワークショップ

<テーマ>　研究の社会的インパクトとはどういうものか～事例から学ぶ

<目的>

そもそも**社会的インパクトとはどういうもので、研究が社会的インパクトを生み出すとはどういうことなのか**をテーマとして絞り込むことで、まず研究が生み出す社会的インパクトを **社会の一員である自分と関係のあるもの**として考えてみることからスタートし、その後、 評価の理由、評価方法などについて、第1部とも接続しながら議論し、理解を深めていく。

<方法>

参加者が事前に事例を検討。その事例を持ち寄って、**互いの考える「研究が創出する社会的インパクト」を共有**し、その**特徴や面白さ、創出のされ方の多用性についてディスカッション**

第19回JINSHA情報共有会　企画立案・協力（講演・ワークショップ）

人社系URAネットワーク: 中野悦子（北海道大学），佐々木結（京都大学）
川人よし恵（大阪教育大学／大阪大学），新澤裕子（東京大学）
押海圭一（国文学研究資料館），荒木裕子（広島大学）
森本行人（筑波大学），山田綾子（大阪大学），藤川二葉（京都大学）
稲石奈津子（京都大学）

8

人文・社会科学系URAネットワークとは

➢ネットワーク形成の主な動機

JINSHA
Japan Inter-Institutional Network for Social Sciences, Humanities and Arts

職場に人社系URAは自分だけ（仲間求ム）

情報交換や相互研鑽したい

自分だけではできない活動を展開したい

➢ネットワークに基づく活動の基本方針

・お互いの関係はフラット
・アイデアや人的リソース、活動資金は持ち寄りで（所属組織の理解を得ることが重要）

9

人文・社会科学系URAネットワークとは

人文・社会科学系研究推進フォーラム（人社系フォーラム、2014年発足）を連携して開催している幹事校・13大学のURAのゆるやかなつながり。イベント開催や情報共有等の活動基盤として機能している。

- ネットワークメンバーは以下13大学に所属するURA（2024年９月現在）
  - ・大阪大学 経営企画オフィスURA部門
  - ・京都大学 学術研究展開センター
  - ・筑波大学 研究戦略イニシアティブ推進機構 研究マネジメント室
  - ・琉球大学 研究推進機構研究企画室
  - ・早稲田大学 研究戦略センター
  - ・北海道大学 統合URA本部
  - ・横浜国立大学 研究推進機構
  - ・中央大学 研究推進支援本部
  - ・広島大学 未来共創科学研究本部 研究戦略部 研究戦略推進部門
  - ・東北大学 研究推進・支援機構リサーチ・マネジメントセンター
  - ・東京大学 リサーチ・アドミニストレーター推進室
  - ・新潟大学 経営戦略本部UA室
  - ・神戸大学 学術研究推進機構 学術研究推進室

10

人文・社会科学系フォーラム

https://www.ura.adm.u-tokyo.ac.jp/services/view/d6a8cef1-22f8-4c00-b080-c28fc4cf6c75

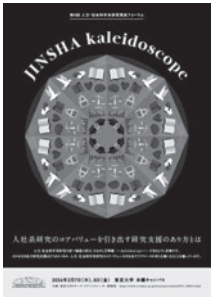
第1回（2014年12月、大阪大学）
「人文・社会科学系研究推進に必要な共通基盤整備を考えよう」

第2回（2016年3月、筑波大学）
「人文・社会科学系研究推進の三手先を考える」

第3回（2017年3月、琉球大学）
「地域社会が抱える社会課題の解決や新たな価値創造」

第4回（2018年3月、京都大学）
「人文・社会科学系研究の未来像を描く
― 研究の発展につながる評価とは」

第5回（2019年3月、早稲田大学）
「人文・社会科学系研究を振興するファンドとその支援」



第6回（2020年10月、北海道大学）「人社主導の学際研究プロジェクト創出を目指して」

第7回（2022年3月、中央大学）「人文・社会科学系研究が創造するイノベーション」

第8回（2023年3月、広島大学）「ELSI（倫理的・法的・社会的課題）に取り組むURAの在り方」

第9回（2024年3月、東京大学）「JINSHA kaleidoscope
― 人社系研究のコアバリューを引き出す研究支援のあり方とは ―」

11

人社系URAネットワークの今後の活動について

第10回　RA協議会　年次大会　ポスター発表（P016　P-2-8）

代　表：川人 よし恵(大阪教育大学)、新澤 裕子(東京大学)　**幹事校のURAが協力**

「機関をこえたURA連携の意義とは
～人社系URAネットワーク10年の軌跡と展望」

※キーワード：人文・社会科学系、URAネットワーク、議論の場づくり、研究推進

第10回　人文学・社会科学系フォーラム　主催校：神戸大学＆新潟大学　**ダブル主催！**

テーマ：「人社系研究の社会貢献ー"シンダイ"から世界へー」（予定）

開催日＆場所：2025年3月10日（月）@神戸大学

詳細が決まり次第ご案内いたします

国立大学法人 神戸大学 学術研究推進機構 URA 学術研究推進室

新潟大学URA
Niigata University Research Administrator

12